

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：34426

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K20632

研究課題名（和文）公共図書館におけるマイノリティ向けサービスの提供実態とその要因に関する研究

研究課題名（英文）Investigation on actual conditions of services for minority people and the factor to provide the services in Japanese Public Libraries

研究代表者

水沼 友宏（Mizunuma, Yuhiro）

桃山学院大学・経営学部・講師

研究者番号：20822688

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、公共図書館におけるマイノリティ向けサービスの提供実態を明らかにする一環として、(1)日米の図書館が公開するYouTube動画の調査、(2)性的マイノリティ（LGBTQ）に関する所蔵調査とインタビュー調査の2つを行った。(1)の結果、聴覚障害者や非日本語話者向けの動画など、いくつかのマイノリティサービスが提供されていること、それらの動画は視聴回数が多いことが明らかになった。(2)の結果、所蔵されやすい書籍の傾向が明らかになるとともに、図書館の新しさや自治体の政策、職員の意識、図書館の立地などがサービスの提供に影響を与えていることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

公共図書館で障害者、言語的・民族的マイノリティ、性的マイノリティ（LGBTQ）といったマイノリティ向けサービスを提供することの重要性はたびたび指摘されてきた。このようななか本研究は、新しいメディアであるYouTubeを用いたマイノリティ向けサービスの提供実態や、性的マイノリティ（LGBTQ）向けサービスの実態とそれに影響を与える要因を明らかにした。本研究で明らかにした実態や先進事例は、図書館におけるマイノリティサービスの改善に資する可能性がある。また、導入を阻害・促進する要因を図書館や自治体を取り除いたり、導入したりすることでサービスの向上が見込まれる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the actual conditions of services for minority people and the factor to provide the services in Japanese Public Libraries. Firstly, YouTube videos provided by public libraries in U.S. and Japan were investigated. It was clarified that some minority services were provided using YouTube video such as services for non-English or non-Japanese speakers and deaf and hard of hearing people. Secondly, the holdings of books related to sexual minorities in Japanese public libraries were investigated and some interview surveys were conducted to determine the reasons behind the difference of providing level. It was found that Japanese public libraries tend to hold more Japanese and English novels, and picture books related to sexual minorities. It was also found that the services were affected by municipal policies and newer libraries, and those in complex facilities tend to hold more books related to sexual minorities compared to other libraries.

研究分野：図書館情報学

キーワード：マイノリティ LGBTQ 聴覚障害者 実態調査 所蔵調査 インタビュー調査

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本の公共図書館におけるマイノリティ向けサービスの提供実態を調査し、提供の有無に影響を与える要因を解明することを試みるものである。

公共図書館は、すべての人へのサービスの提供を基本的理念としている。例えば「ユネスコ公共図書館宣言」や日本図書館協会の「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」には、人種や社会的身分、そのおかれている条件によって図書館の利用に差が出てはならないことが明記されている。また、2012年に文部科学省が公開した「これからの図書館像」の中では、障害者・多文化サービスといったマイノリティ向けサービスの重要性が説かれるとともに、これらのサービスは他のサービス以上に実施状況の格差が大きいことが指摘されている。

このような背景の下、諸外国のマイノリティ向けサービスの動向の報告や、国内外での先進的なケーススタディが少なからず報告されてきた。しかし、日本の全体的な傾向はこれまで十分明らかにされておらず、さらに自治体の特徴や図書館の特徴から、マイノリティ向けサービスの提供実態に影響を与える要因の解明を試みた研究はない。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の図書館における障害者、言語的・民族的マイノリティ、性的マイノリティ(LGBTQ)といったマイノリティ向けサービスの現状と、その現状を決定している要因を明らかにすることである。具体的には、(1)日米の公共図書館が公開するYouTube動画を調査することで、新しいメディアであるYouTubeでどのようなマイノリティ向けサービスが提供されているのかを明らかにすること、(2)日本の公共図書館における性的マイノリティ(LGBTQ)に関する書籍の所蔵実態を調べた上で、マイノリティ向けサービスの提供レベルの差に影響を与える要因を明らかにすること、の2点を目的とする。

日本の公共図書館における実態を表すことは、国や各自治体によるマイノリティサービスの指針作成に寄与すると考えられる。また、先進事例の紹介を含めることで、サービスの改善を狙う図書館の参考になる可能性がある。さらに、上記(2)によりマイノリティサービスの導入を阻害・促進する要因が分かれば、その要因を取り除いたり、導入したりすることでサービスの向上が見込まれる。

## 3. 研究の方法

以下では、研究の方法について、(1)日米の公共図書館が公開するYouTube動画の調査、(2)日本の公共図書館における性的マイノリティ(LGBTQ)向けサービスの調査、の順に述べる。

### 3.1 日米の公共図書館が公開するYouTube動画の調査方法

この調査では、日米の公共図書館を対象に、YouTubeにおいてどのようなマイノリティ向けサービスが提供されているか、どのような動画が視聴回数が多いのかを調査した。調査対象は、米国の公共図書館が公開する206の動画と、日本の公共図書館が公開する970動画とした。

米国の公共図書館の調査については、まず米国の公共図書館9,629から無作為に抽出した1,000館のホームページを目視で確認し、YouTubeを利用している図書館を明らかにした。その上で、各図書館のYouTubeを確認し、視聴回数が多い動画(具体的には視聴回数が700回以上の動画)107件と視聴回数が少ない動画(具体的には視聴回数が12回以下の動画)109件の内容を比較した。調査は2018年9月～2019年4月に実施した。

日本の公共図書館の調査については、SaveMLAKが実施した公共図書館でのSNS活用状況の調査(<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9/20210721SNS>)でYouTubeの利用が明らかになった図書館72館を対象に、マイノリティ向けの動画の実態を調査した。調査は2022年3月に実施した。

### 3.2 日本の公共図書館における性的マイノリティ(LGBTQ)向けサービスの調査方法

この調査では、日本国内の公共図書館3,085館を対象に、カーリル(<https://calil.jp/>)のAPIを用いて性的マイノリティ(LGBTQ)関連書籍433点の所蔵状況を調査した。この調査は2019年6月～7月に実施した。加えて、提供実態に影響を与える要因を明らかにするため、まず(1)設置自治体がパートナーシップ制度を導入しているか否か、(2)設置自治体がLGBTQに対する差別的な扱いを禁止する条例を施行しているか否か、(3)指定管理者制度を導入している図書館か、による所蔵傾向の差を定量的に示した。さらに性的マイノリティ(LGBTQ)関連書籍を多数所蔵している図書館16館を対象として、提供に影響を与える要因を尋ねるインタビュー調査

等(インタビュー調査 8 館, 質問紙による調査 7 館, ハイブリッド 1 館)を実施した。この調査は 2021 年 3 月~7 月に実施した。その上で『日本の図書館: 統計と名簿』を用いて定量的に検証可能なものは, 検証を行った。

#### 4. 研究成果

以下では, 研究成果について, (1)日米の公共図書館が公開する YouTube 動画の調査, (2) 日本の公共図書館における性的マイノリティ (LGBTQ) 向けサービスの調査, の順に述べる。

##### 4.1 日米の公共図書館が公開する YouTube 動画の調査結果

日米の図書館の公開する YouTube を調査した結果, 米国では, ストーリーテリングや様々な解説動画(電子書籍のダウンロード方法, コードカッピングの方法, 手袋の編み方, ボードゲームの遊び方など)が図書館により公開されていることが明らかになった。また, 日本でも, お話し会(読み聞かせや紙芝居, わらべうた, ブックトークなど)が図書館により公開されていた。このような動画は, 単に図書館の広報を目的としたものではなく, 図書館サービスを提供するものと言える。非来館者にも提供可能な YouTube 動画は, 身体的理由などで図書館を利用できない人々へのアプローチを可能にする。また音声付与可能なメディアであるため視覚障害者などウェブページ等の文字情報から情報を得づらい人々への情報提供も可能にする上, YouTube の標準機能である「速度調整」「自動翻訳」「字幕」は, 日本語の理解が難しい人々や聴覚障害者をはじめとした多様な人々の負担を軽減し得る。本研究ではこのような特徴を持つ YouTube で上述のように様々なサービスが提供されていることが明らかになった。

これに加え, 日米の図書館は手話の動画を公開していることや, 米国の図書館はスペイン語の動画を, 日本の図書館は英語の動画を公開しており, 聴覚障害者や非英語・日本語話者などいくつかのマイノリティに配慮した動画が公開されている実態が明らかになった。また, 米国ではそのような動画は他の動画に比べ視聴回数が増えることも示唆された。

##### 4.2 日本の公共図書館における性的マイノリティ (LGBTQ) 向けサービスの調査結果

日本国内の公共図書館 3,085 館を対象に性的マイノリティ (LGBTQ) 関連書籍の所蔵調査を行った結果, 調査対象の性的マイノリティ (LGBTQ) 関連書籍を 1 点も所蔵していない図書館が 58 館存在すること, 絵本や日本・英米の小説・物語が所蔵されやすい一方, 自叙伝を含む C コードの末尾が「95」の書籍は所蔵されにくいこと, 性的マイノリティ (LGBTQ) 関連のコミックスは需要が高いにもかかわらず所蔵されにくいことが示唆された。

さらに, パートナシップ条例を導入している自治体や LGBTQ に対する差別的な扱いを禁止する条例を制定している自治体にある図書館はそうでない図書館に比べ LGBTQ 関連図書の本所蔵率が有意に高いことが明らかになった。加えて, 図書館に対するインタビュー調査などの結果から, 職員の意識や性的マイノリティ (LGBTQ) に関する自治体の政策が図書館の性的マイノリティ (LGBTQ) 関連書籍の所蔵状況に影響を与えていること, 複合施設の中の図書館, 特に複合施設の中に学校や教育施設等がある図書館であることや新しい図書館であることが, 性的マイノリティ (LGBTQ) 関連書籍の所蔵率の高さに影響を与えていることが示された。

以上の結果は論文として刊行した<sup>1)2)3)</sup>。また, 図書館員を対象とした研修会にて発表することで<sup>4)</sup>, 図書館の現場に還元した。

1) Yuhiko Mizunuma and Keita Tsuji. Investigation of Public Libraries Managed by Outsourcing: A Study Focusing on Library Usage, Opening Days, and Directors' Librarian Qualifications and Workloads. International Journal of Service and Knowledge Management, 2019, vol.3, no.2, p.62-81.

2) 水沼友宏, 辻慶太. 公立図書館における LGBTQ 関連図書の所蔵実態. 日本図書館情報学会誌, 2022, vol.68, no.2, p.73-94.

3) 水沼友宏. 公共図書館による YouTube を用いた動画の公開. カレントアウェアネス. 2022, no.352, CA2021, p.13-18. (動向レビュー).

4) 「図書館と LGBTQ」. 令和 4 年度図書館地区別研修 (近畿地区). 2023 年 1 月 25 日.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 水沼友宏, 辻慶太	4. 巻 68(2)
2. 論文標題 公立図書館におけるLGBTQ関連図書の所蔵実態	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本図書館情報学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20651/jslis.68.2_73	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuhiro Mizunuma, Kazuki Sato, Fumiaki Miyazaki, Keita Tsuji	4. 巻 8(4)
2. 論文標題 YouTube Videos Produced by U.S. Public Libraries: Analysing Factors that Increase Views	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Qualitative and Quantitative Methods in Libraries	6. 最初と最後の頁 547-560
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水沼友宏	4. 巻 (352)
2. 論文標題 公共図書館によるYouTubeを用いた動画の公開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 カレントアウェアネス	6. 最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11501/12301407	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 水沼友宏
2. 発表標題 図書館とLGBTQ: 関連資料の提供を中心に
3. 学会等名 図書館について学ぶ相互講座 (日本図書館研究会第365回研究例会・図書館サービス研究グループ2021年1月研究例会と共催)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuhiro Mizunuma and Keita Tsuji
2. 発表標題 LGBT Book Collections in Japanese Public Libraries
3. 学会等名 Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice (A-LIEP 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

【図書館員向け研修会講師】「図書館とLGBTQ」。令和4年度図書館地区別研修（近畿地区）。2023年1月25日。
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------